

《目的》 近年、社会の変動に伴い、男女同権が叫ばれ、女性の地位の向上が進んできている。こうした変化の中で、女性に対する見方や考え方にも変化がみられるものと考えられる。そこで、女らしさというものの目的を絞り、果たして今の世の中で女らしさとはどのようにとらえられているのかについて、大学生を対象にアンケート調査を実施し、男子大学生と女子大学生の特徴を中心に考察した。

《方法》 被験者は首都圏在住の大学生 195名（男子95名、女子100名）であり、1990年10月から11月に留め置き法、及び集合調査法によりアンケート調査を実施した。調査内容は女らしさに関する意識の調査、及び Bem による男性度・女性度の測定尺度調査である。調査データは平均値の差の検定、因子分析法の統計的手法により解析した。

《結果》 大学生が女らしいと評価した項目は、振袖を着る、子育てをする、などであった。一方、女らしくないと評価した項目は、タバコを吸う、お酒を飲む、などであった。また、男女間における平均値の差の検定により有為な差が得られた項目は、上品にふるまう、流行にそった着装をする、などであった。次に、女らしさに関する意識の調査について因子分析（固有値 1.0以上、バリマックス回転）を行った結果、11個の基本的因子が抽出された（累積因子寄与率 65.0%）。その代表的なものは、流行・ブランド志向因子（因子寄与率 11.0%）、女性的着装因子（10.3%）、女性的家庭役割因子（7.3%）、などであった。これらの各基本的因子に対する男女間の差、及び男性度・女性度の測定尺度のグループ間の差について因子得点をもとに考察した結果、いくつかの特徴がみられた。